

## 自主シンポジウム 5

5月19日(日)14:00~16:30

7号館 7311教室

## 保育実践による国際協力について考える

- 企画・司会者 前田美和子 (青年海外協力隊幼児教育指導員)  
 話題提供者 坪川 紅美 (元青年海外協力隊マレーシア派遣幼稚園教諭隊員)  
 山本 伸子 (元青年海外協力隊ポリビヤ派遣保母隊員)  
 野村美和子 (元幼い難民を考える会カンボジア事務所長)  
 関口はつ江 (郡山女子大学短期大学部)  
 指定討論者 大戸美也子 (武蔵野女子大学短期大学部)

1995年8月、第21回OMEP世界大会が横浜で開催され、参加者の中に開発途上国の保育者も多く、有意義な国際交流をもつことができた。いくつかの開発途上国の方々から「自分の国の保育・教育課程は、母国の保育者の実践によって創造しなければならない。今まで外国からも多くを学んできたが、自ら探り自分の国のものを創りだした。」と発表があった。戦後50年、日本の幼児教育も同様な努力を重ねてきたことを思い起し、私達は心から共感をもった。また、他のいくつかの開発途上国の保育者の方々からは「自分の国では幼児教育の必要が高まっている。しかし資金や専門指導の人材が乏しい。OMEPあるいは日本に協力を願えないか」という発言があった。保育環境・保育人材に恵まれた日本の状況とを比較して強く関心をもった。開発途上国に幼児教育が広がろうとしているこの時期に、保育による国際協力について考え、実践に移していきたいものである。

今回のシンポジウムでは、この十数年、開発途上国で保育活動を行ってきた青年海外協力隊や幼い難民を考える会などの国際ボランティアによる経験、途上国研修生の育成等について話題提供し、保育実践による国際協力の意義や在り方について考えたい。

## 視点として

- ・ 開発途上国の子供たちのよりよい育ちのためには
- ・ その国、その地域の人々が自立し「保育」をすすめていくには
- ・ 国や民族の文化・教育観を尊重しながら、幼児期の発達に合う保育を進めるには
- ・ 養成校における開発途上国研修生受け入れの課題と学生・幼児の国際理解教育は
- ・ 保育者・研究者として国際協力の体験から学んだものは など

指定討論として、世界の幼児教育の動き、開発途上国の幼児教育へのニーズを視野にいれながら、保育による国際交流・国際協力の課題を問い直し話し合いを深めたい。フロアも交えて率直な討論を展開したいと考えている。